

## 令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会役員会および第1回専門部会報告会 議事録

開催日時：＜役員会＞令和4年8月6日（土）10：15～11：00

＜第1回専門部会報告会＞令和4年8月6日（土）11：00～12：00

開催方法：Web会議 四国がんセンター新棟研修室からの発信

司会進行：協議会幹事長 四国がんセンター 橋根 勝義

出席者：別紙資料1「役員会名簿」

### 議題

#### 1. 開会の挨拶＜山下協議会会長＞

皆様、本日はお忙しいところ本会にお集まり頂きましてありがとうございます。8月1日に「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」の通知が出され、このがん診療連携協議会の機能強化し、がん診療の質の向上と診療連携体制の整備し、地域のニーズに合わせた対応、情報共有することが盛り込まれています。しっかり役割が果たせますよう、ご協力をお願いします。

#### 2. 令和4年度役員自己紹介（資料1 P.3参照）

新規役員	四国がんセンター	院長	山下 素弘 先生
	市立宇和島病院	院長	善家 喜一郎 先生
	松山赤十字病院	院長	西崎 隆 先生
	愛媛労災病院	院長	木戸 健司 先生
	愛媛県歯科医師会	会長	橋本 成人 先生
			（代理出席）副会長 松木 建二 先生
	愛媛県病院薬剤師会	会長	田中 守 先生

#### 3. 報告事項

##### 1) 第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（2022.06.30Web会議）報告

＜山下協議会会長＞

\*詳細については、がん情報サービスに掲載されている第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の議事を参照下さい。

平成30年から始まった第3期がん対策推進基本計画は今年度までとなる。

分野別施策 1. がん予防、2. がん医療の充実、3. がんとの共生 に関し、更なる充実について、特に情報提供の在り方、それに対してのプロセスなどに関しては、いくつか改善を求められる点があった。中間評価の概要について、①科学的根拠に基づくが

ん予防・がん検診の充実、については、がん検診の受診率を高めるという目標が達成できなかった。②患者本位のがん診療の充実、については、いろいろな形での提案や数値目標も挙げられており、協議会の役割もしっかり求められている。

具体的などころでは、

- ・「都道府県がん診療連絡協議会」の機能を強化し、情報共有と連携強化、利用される患者への広報活動や地域への周知を含めたがん診療等水準向上を目指す。
- ・県内拠点病院の役割分担を議論・整理し、情報共有につながる体制を確立する。
- ・頻度の高いがんに対する集学的医療体制の整備と、希少がん・小児がん治療や妊孕性に関する適切なネットワーク構築につなげる支援・情報提供体制を確立する。
- ・患者に対して「セカンドオピニオン受診を促す」、「必要な緩和ケア」を提供できる体制を構築する。
- ・相談支援センターの充実（人材育成と、患者はがん相談支援センターを一度は訪れることを拠点病院の「必要条件」に位置づける予定）。愛媛県ではがんサポートブックえひめ（冊子）の改訂版を発刊しているので、利用頂きたい。
- ・地域のがん登録に関しての目標設定や、人材の教育研修についても広く力を入れるようにといった提言がなされている。

以上のような点について、秋にはいろいろ確定してくると思われるので、協議会参加施設の皆様にはご協力をお願いしたい。

#### <橋根幹事長>

先日、がん診療連携拠点病院の指定要件が新しく公表されたので、各施設で現況報告に向けてよく目を通して頂きたい。

#### 2) 愛媛県がん診療連携協議会規程・運営要綱、組織図（資料 3）

組織図（P.17）について、当院の藤山が副院長に就任したので、次回からは幹事を藤山が担当する。

#### <藤山四国がんセンター副院長>

四国がんセンター藤山です。この後役を引き継がせて頂きます。至らない点が多いと思いますが、宜しく願いいたします。

#### 3) 厚生労働科学研究の報告「がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細の実態」病院第 81 巻第 5 号\_医学書院。他（資料 8）

四国がんセンター谷水前院長から、班会議等で参加していた活動がまとまって本になったものを寄稿して頂いた。資料にも載せているが、各施設に数部ずつお送りする。

4) 令和3年度役員会、令和3年度第2回専門部会報告会、令和4年度第1回幹事会の議事録（資料4～6）

議事録資料について、不明な点や疑義があれば、お知らせ下さい。

5) がんに関する冊子のお知らせ（全国がんセンター協議会）（資料9）

毎年、中央から冊子が送られてきており各施設に配布しているが、昨今はコロナの状況で出張相談等のイベントが少なくなり冊子が余っているため、部数を増やして配布する。活用して下さい。

6) 愛媛県健康増進課

<保健福祉部健康衛星局健康増進課係長 三宅様>

・若年がん患者在宅療養支援事業について

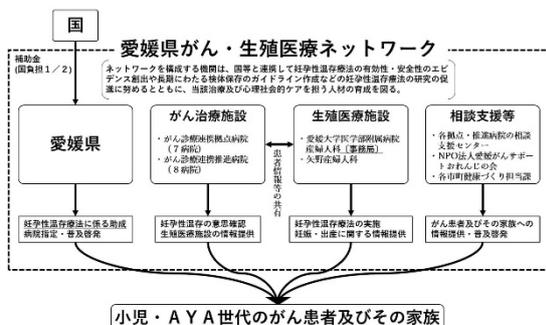
小児慢性特定疾病の医療助成と介護保険のはざまにある世代の方を対象に在宅療養を支援するため、令和2年度から開始している。昨年度までは一部市町で対応できていなかったが、今年度から県内の全市町で事業が実施できているので、各市町の相談窓口の詳細は問い合わせを頂きたい。対象は20歳以上～40歳未満、内容は訪問介護や入浴介護、また福祉用具の貸与・購入に対する助成であり、月額6万円を上限として、そのうち9割を市町と県で共同して助成する。この制度についてはまだまだ患者さんへの認知度が広がっていないところがあるため、各病院の相談窓口等においては、制度の周知にご協力をお願いします。

・小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

愛媛大学医学部附属病院様にネットワークを構築して頂くなどの多大なご尽力を頂き、本県においても今年度から事業を開始している。小児・AYA世代のがん患者に対して妊孕性温存療法や温存後の生殖補助医療に関し、治療費の概ね半額程度が補助される制度である。この制度は原則治療後に申請することとなる。制度の利用にあたっては、がんおよび妊孕性温存療法等の双方の主治医からの証明書が必要になるため、患者の方から要請があった場合にはご対応をお願いします。

ネットワークに関して、指定医療機関となる病院の指定には、県や学会の指定が必要となっており、現在愛媛県内では、愛媛大学医学部附属病院の産婦人科、松山市の矢野産婦人科の2つの医療機関が指定となっている。

3 事業イメージ



・第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価について

国の基本計画の中間評価に関しては、冒頭で山下会長より説明があったとおり公表されたところであるが、第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価は昨年度末に公表している。委員からは、主にごがん登録などの実態データを活用した県民への検診受診啓発の強化や、患者家族の方への情報提供の強化を図るべきという意見を頂いている。引き続き、原計画に沿ったがん対策の推進にご支援頂きたいほか、山下会長からご報告があったとおり、国の基本計画が今年度をもって改訂となり来年度から新計画がはじまり、それに沿った形で、県の対策計画も令和5年度を終期として国の新基本計画に沿った形で来年度改訂をおこなうため、改訂作業があるという予定となっている。その他、国がんの方では患者家族調査もおこなわれるようなので、ご協力をお願いいたします。

I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・全国と比較して肝がんや乳がん、子宮がんなどの死亡率が顕著に高い
- ・がん検診の受診率は全国平均を下回っている状況
- ・新型コロナウイルス感染拡大による検診控え、受診控えの影響が出ている

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん登録情報をはじめとする実態データを活用して県民への注意喚起や本件独自の課題の抽出に取り組むことを検討されたい。
- ・検診受診の啓発に「がん対策推進員」を有効活用するなど、検診受診率の向上や死亡率の低減を図るための取組みの強化が必要

II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・セカンドオピニオンに関する話しを受けた患者が少なく、医療者間での情報共有や患者が相談しやすい体制作りに大きな課題がある
- ・患者の2割が専門的な医療を受けられたと感じていない（希少がんについては4割がそう感じていない）

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・患者やその家族が納得して治療を受けられたと感じられるよう、医療機関や医療スタッフ間での更なる連携強化、情報共有が必要
- ・専門的な人材の確保・育成・配置に更に注力されたい

III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・依然として、患者やその家族に対して十分に情報が届いているとは言えない
- ・がん患者の就労や小児・AYA世代など特有の課題を抱えている世代への支援やサポート体制が不十分である

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん相談支援センターを核に、医療関係機関や行政、患者団体等がそれぞれの立場で情報の共有や周知の強化を図ることが必要
- ・相談支援や啓発に携わる人材育成にも取り組んでいくことが必要複数の分野に係る意見

複数の分野に係る意見

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・次期計画の目標や指標の設定にあたって、各分野の主要な取組みの内容や成果を検証、評価するためのエビデンスについて改めて関係者間で御議論いただきたい。

<橋根幹事長>

若年者および妊孕性に関して、県でもサポートの体制をすすめて頂いていますが、各施設の方でも十分な周知と患者さんへの説明等が必要と思いますので、引き続き、協議会の方ですすめていきたいと思えます。

何か質問があれば、事務局まで連絡をお願いします。

7) 愛媛県におけるがんの医科歯科連携推進に向けて (資料 10)

<橋根幹事長>

医科歯科連携においては今まであまりすすんでいなかった面もあるため、今年から少しずつ体制を構築できたらと思えます。当院の歯科古川より説明があります。

<四国がんセンター古川歯科医長>

当院のようながん専門病院でも「全ての患者」に「必要な口腔管理」を提供できておらず、重要度の高い患者から対応している。また、一般的には病院内に「がん医科歯科連携システム」の構築がない、または、構築されていても活用されていない場合も多く、患者が紹介状を持参せず、がん治療中であることも伝えずに地域の歯科医院等で歯科受診をしている事が推測される。これは、患者にとっても歯科医院にとってもリスクが高い。そこで、すべてのがん患者が必要な歯科治療・口腔管理を安心して受けられる体制の構築が必要であるが、病院歯科だけでは対応が難しく「歯科開業医」との連携が重要となってくる。

全国におけるがん医科歯科連携の現状は、がん治療開始前からの歯科受診は手術、抗がん剤ともに増加している。しかし、愛媛県においては不十分な面もある。

(参考) 開業歯科医院における周術期口腔機能管理計画策定数

	算定医療機関	算定回数
1位	広島県 838	5496
32位	愛媛県 37	289

がん治療病院とかかりつけ歯科との医科歯科連携推進するため、下記の事項を行いたい。

■ 県内の歯科医療従事者のがんについてのレベルアップ

- ・ 歯科医師、歯科衛生士向けのがん関係講習会開催
  - ▶ 歯科衛生士会は秋に開催予定
- ・ 歯科衛生士会の協議会への参加

■ 県内での医科歯科連携の構築、歯科医師会とのさらなる連携

- ・ がん治療医の先生方に負担のかからない仕組み
  - ▶ 地域連携室等で対応（紹介先の歯科医院の選定、診療情報提供書作製）
  - ▶ 担当医の先生は書類の内容チェックと捺印を行う（負担軽減）
- ・ かかりつけ歯科の先生方がわかりやすい仕組み
  - 依頼が少ないと依頼内容や算定、書類がわかりにくい
    - ▶ 県内で医科歯科連携に関する書類を統一してどの病院から来ても同じ対応
    - ▶ 紹介状に必要な書類や処置別の対応方法の要点を同封等

#### 4. 協議事項

##### 1) 令和4年度後半スケジュール

今年度後半のスケジュールについて、10月13日の幹事会までは日程が決定しているが、その後の第2回専門部会報告会の開催日程が決まっていない。候補日について、資料中に1/12、1/19を挙げているが、できれば1月中で、また、年明け早々になるため1/19（木）に開催させて頂きたい。従来は12月に開催していたが、多くの方に参加頂きたいことから、開始時刻が遅くはなるが、平日の17時半から1時間半ぐらいの時間帯での開催として、提案する。

《異議なし》

<橋根幹事長>

第2回専門部会報告会の開催は令和5年1月19日（木）17時30分～、に決定とします。もし何か都合があれば、事務局まで連絡下さい。

##### 2) 令和5年度年間スケジュール

例年4月に開催している幹事会と、7～8月に開催している役員会の日程について検討したい。幹事会の候補日は4/13か4/27を挙げているが、学会シーズンでこの期間もかなり多くの全国学会があり、日程的には厳しいところがある。

《異議なし》

<山下協議会会長>

8月の役員会については、本日も、午後からの時間帯での開催に変更となったが、愛

媛県外科会など各種学会等の予定が重なるため、先生方のご都合をお聞かせ頂きながら、できる限り調整をしていきたいと思っております。

<橋根幹事長>

幹事会は第一候補を4/13、第2候補を4/27、役員会は第一候補を7/29の提案とし、学会等の先生方の都合によって可能な限り調整する。

3) 令和5年度緩和ケア研修会 PEACE 日程案 (資料13)

各施設で日程案を確認の上、検討をお願いします。

4) 愛媛県でのがんデータベースの構築について (資料14)

<がん登録専門部会 寺本部長>

議案；愛媛県がん診療連携協議会（協議会）が『愛媛県がん情報データベース』を構築し、『研究利用』という枠組みで利用する。

データベースの構築・管理は愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会と四国がんセンター臨床研究センターがん予防疫学研究部、愛媛県がん登録室が共同して行う。協議会の方々に構成される『データ利用促進委員会』で議論したいと考えているので、成立したら、是非、参加をお願いします。

背景；現在では、愛媛県のがん診療連携協議会ではがん登録専門部会が中心となって「がん登録でみる愛媛県のがん診療」という冊子を作成している。県の事業として集計事業としておこなっているが、冊子やがんサポートサイトえひめに提供することはできるが、医療関係者の方々から希望にあわせた詳細なデータについては、集計事業であるため研究的に近いものは提供しづらいというようなことがあった。

⇒集計事業は継続するが、臨床研究という枠を付け加えて実施していきたいと考える。

\*がん登録データなど、既存資料の研究利用については、これまでは、それぞれの施設での倫理審査委員会で承認を得てそれぞれの公示文書を作成し、公示していたが、根拠となる法律等の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」とその「ガイダンス」、「個人情報保護法」が改正され、協議会の全施設分を一括で倫理審査をおこない、同一の公示文書で公示できるようになり、利活用しやすくなった。

がん登録関連データの収集について；

役員会、倫理審査委員会で承認後

A 国がんへの全国集計データ提出

B 愛媛県院内がん登録集計（0年データ）

C 愛媛県院内がん登録生存率集計（予後付きデータ）

D 東班 QI データ（拠点のみ参加）

（→提出用アプリがあり簡単に提出できるので、推進病院にも参加頂きたい。）

愛媛県がん情報データベースでは上記の B、C、D を取り扱う。

B 愛媛県院内がん登録集計（0 年データ）

C 愛媛県院内がん登録生存率集計（予後付きデータ）

D 東班 QI データ

愛媛県がん登録データベースを作成したらできること；

データ活用の範囲が増える

- ・ NCD にデータを申請する前の予備データとなる。
  - ・ 臨床研究を計画したいが、予後情報や治療情報を含めて知りたい。など。
- 例）セカンドオピニオンの各施設の初回治療時までにおこなっている数。

類似先行事例；

1. 北信がんプロ運営委員 データベース委員会

<https://gan-pro.net/about/>

富山、金沢の辺りの先生が中心となって活動している。院内がん登録の研究利用という形でデータベースを作っている例がある。1、2 例 AYA 関係の研究が動いており、同じようなことを目指している。

役員会および倫理審査委員会で承認を頂けたら、今までと同じ扱いのがん登録データを研究利用できるデータベースの形にして、使いたい人が、迅速審査で 1 カ月程度でデータ提供を受けられるところを目指したい。

ご承認をよろしく願いいたします。

< 橋根幹事長 >

特に各施設から追加のデータが要るということではなくて、研究をしたいということデータをデータ利用促進委員会事務局に申し出れば、倫理審査委員会に提出する資料も準備できるということでしょうか。

< がん登録専門部会 寺本部長 >

中央倫理審査委員会での一括審査に提出するための書類は現在作成中である。先生方から、このようなデータが欲しい、という相談をしてもらえると、目的やタイトルを書き換えるだけで倫理審査委員会に提出できるような書類の作成を検討しているので、迅

速審査の上提供できることになると考えている。

《異議なし》

<橋根幹事長>

懸念事項が何かあれば、事務局まで連絡をお願いします。特に反対意見がなければ、承認とさせて頂けたらと思います。

\*\*WEB 会議室を切り替え\*\*

## 6. 専門部会報告（資料 15）

### 1) PDCA 部会

<PDCA 部会 寺本副部会長、青儀副部会長>

第1回専門部会を6/21に開催した。

#### 1. 患者体験調査について

国立がん研究センターで3~4年に1回程度、患者体験調査が定期的に実施されている。患者さん自身に診療内容を評価して頂くという患者目線の評価指標となるので、これを活用させて頂いて、県全体でデータを共有し、PDCA活動につなげられないかという検討をおこなっている。質問の例)・「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができたか。・がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか。など。愛媛県の中間報告が公表されたことから、協議会、がんサポートサイトえひめ等のホームページに公開するための案を作成している。いくつかの点を取り上げてPDCAの対象とする。

#### 2. 東班「QI研究」について

・PDCA部会における指標として採用

①大腸がん 継続 2018 大腸癌への術後化学療法

④全がん 継続 2018 制吐高リスクの抗がん剤へ制吐剤

⑤全がん 継続 2018 外来麻薬開始時の緩下剤処方

⑦胃がん 継続 2018 切除不能IV期胃がんへの化学療法前 HER2 検査

⑧胃がん 継続 2018 化学療法前の血液検査

①、⑦については改善の余地がないくらいに良かった。

ホームページに公開してお知らせできるよう準備中である。

#### 3. 専門部会活動のアンケート調査

専門部会活動に対しては、外部評価をされていないのではないかという視点から、各施設幹部（PDCA委員など）と一般職員（非専門部会員を含む）の皆様を対象として各専門部会

の活動の認知度や評価をアンケートとして実施し、それを協議会自身のPDCA活動とできるのではないかと。質問の例)・活動の認知度『がん登録でみる愛媛県のがん診療』・全国がん登録データ・がんサポートサイトえひめ・研修会など。・活動の評価 実際に役に立ったことがあるかないか、利用したことがあるかないか。期待。など。

まずは、がん登録専門部会からはじめるということで、先週、メーリングリストに配信した。幹事・PDCA部会員向けと、一般協議会職員向けと2種類あるので、間違えないよう回答にご協力下さい。

#### 4. 協議会共通 Quality Indicator の設定について

愛媛県独自の Quality Indicator を作成したい。PDCA部会員宛てにアンケートを取らせて頂き 1. がん診療評価指標 2. がん診療体制の質に関する調査 3. がん相談支援のPDCA サイクル確保の取り組み 4. 緩和ケアチームセルフチェックプログラム などのQIを使っているということをお知らせ頂いた。簡易な指標を用いて経営などを含めた指標ができないかということで模索している。

#### 5. 相互訪問調査／WEB 監査について

がん診療の質を担保する取り組みとして、相互訪問調査の実施を検討している。相互訪問調査は5～6年前に実施しているが、今回はより負担が少ない方法で実施したいと考えており、Webによる施設間ピアレビューを計画している。国立がん研究センターで完成しているZOOMによるハイブリッドでのピアレビューのメソッドを紹介。完全リモートでは手順の問題など難しいので、ハイブリッドの形で、できれば今年度中に開始できるよう検討をすすめたい。

#### 6. がん診療体系の質に関する調査について

毎年度末に行っている東京大学の質評価指標調査については、愛媛県全体の医療の質の向上を目指している。今回(昨年度末に行った)調査結果が出たので供覧する。トップマネージャーに病院の出来栄えファイルとして評価用のファイルが送られ評価を依頼しているが、各診療科の現場医師に向けて、ミドルマネージャー、スタッフ用の簡単なミニ調査票も開発されている。診療科におけるミドルマネージャーの先生方の意識や認識がわかるような、簡易なものであるため、興味があれば、是非参加をお願いしたい。

《質問特になし》

#### 2) がん地域連携専門部会

<がん地域連携専門部会 橋根部会長>

・7/13にWebで専門部会を開催し、主に2つの議題について意見交換をおこなった。  
議題1 診療報酬の改定による病院体制に変更があったか。

議題2 コロナ禍でオンライン面談が普及してきたので、オンライン面談の取り組み状況と件数。

- ・大きな病院体制の変更はなかった。
- ・オンライン診療（セカンドオピニオンなど）の実施や検討をしている施設は現時点ではなかった。
- ・コロナ禍のため、発熱外来などに関しては、タブレットなどを利用した問診や診察について、各施設で独自の取り組みがなされているようであった。

連携パスの充実について

- ・乳がんの連携パスについて、現在は5年計画のものであるが10年間に対応できるパスを作成してもよいのではないか。
- ⇒乳がんに関しては、10年対応の連携パスを使用していくことが承認された。
- ・連携パスの普及については、改訂や運用についてなど更に検討していく。

コロナ禍で対面での専門部会が開催できていないが、がん地域連携専門部会では、各施設の連携室の取り組みについて事前にその時々状況に応じたアンケートをおこなって、連携を強めていくという方針を固めた。

《質問特になし》

### 3) 緩和ケア専門部会

＜緩和ケア専門部会 成本部会長＞

- ・7/8にWeb会議で専門部会を開催した。
- ・1症例を通してグループワーク。テーマ「患者さん・家族の声を聴いていますか」4つの課題を用意し、3グループに分かれてディスカッションをおこなった。
  - 1) あなたがもしこのケースに遭遇したら、どう思い、何をしますか？
    - ・経過をたどると状態が悪化傾向だったので、治療継続が難しくなってきた入院の際に、今後どうするか意思決定ができていれば良かったのではないかと思います。
    - ・帰宅願望があるが症状が強くなり難しい場合、症状緩和が可能か否かを検討する必要があるのではないかと思います。
    - ・どのような状況であっても本人や家族の覚悟次第では帰宅が可能であるから、双方の覚悟を確認した上サポート体制を整え、在宅療養の準備ができれば良かったのではないかと思います。
  - 2) 緩和ケアチームが療養場所の支援にどのように取り組んでいるのか？
    - ・チームとしては介入できておらず、緩和ケアナースや退院支援担当者が介入し主治医へ報告している。

・宇和島地区ではモデル事業があり、地域リソースも把握している上、状態が悪い患者でも受け入れてくれるという信頼関係があるので、在宅緩和に繋げやすい。

3) 意思決定支援で心がけていることは何か？

- ・患者・家族双方から話を聞く。
- ・本人の意向を第一に確認。家族と意見の相違がある場合、チームメンバーが介入し本人と家族の橋渡しができるのであればよいのではないかと思う。
- ・医療者としてはどちらか一方に気持ちが傾くことがないように、本人・家族が同じ立場で話せるよう配慮し、関わっていければよいのではないかと思う。

4) 患者・家族が望む療養場所の決定支援に必要な情報は何か？

- ・本人・家族の意向
- ・病状・予後の認識
- ・マンパワー・社会資源の状態

・ベテル病院中橋先生のミニレクチャー

「緩和ケアをスムーズに進めるための3つのポイント」

①目標の確認

自分らしい生活の在り方・目標をどのように考えているかを確認することは緩和ケアの大切な出発点である。

②病状についての共有

本人・家族と医療者が共通の認識を持つことが大事である。

③予後の予測

いろいろな今後の見通しを立てる上で予後を予測することは重要である。

・まとめ

4つのポイントで、患者さん、家族の声を聴きましょう。

- ①病名・病状の認識      ②治療・療養の場所に対する気持ち
- ③余命についての認識      ④療養についての希望

《質問特になし》

4) がん相談支援専門部会

<がん相談支援専門部会 灘野部会長>

・7/14にWEBで専門部会を開催した。

I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告  
(第18回5月26日(木)オンライン配信)

1) 次期基本計画及び整備指針への提案内容

人員配置要件や相談員の研修終了要件の見直しについて

2) 愛媛県から当専門部会の取り組みについて発表を行った。

3) 「がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ」(冊子)について作成したので、利用して頂くように情報提供があった。利用の仕方について、医師向けにビデオが供覧できる。

4) 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

2. 愛媛県健康増進課より

・「若年がん患者在宅療養支援事業」について

今年度からは県内の全市町で実施できるようになった。

・今治市・西条市で「ウィッグ及び胸部補整具購入費助成事業」が始まった。

・「小児・AYA世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業」の県内動向について

3. AYA世代支援活動についてアンケート結果(2021年度実施)について

昨年度実施したAYA世代支援活動のアンケート結果のホームページへの掲載については、個人情報観点から検討することとなった。

4. 都道府県がん診療連携協議会四国ブロック会申し合わせ事項について

相談支援部門では四国ブロックでもいろいろな活動をおこなっており、申し合わせ事項を作成したのでご承知をお願いしたい。

5. 各ワーキンググループからの活動報告

1) 相談員研修ワーキング

・四国ブロックの活動としての地域相談支援フォーラム in 四国について、今年度は愛媛主催で開催する(令和4年10月22日、WEB開催)。ご協力をお願いします。

2) 広報活動ワーキング

・がんサポートブックえひめ第4改訂版が完成した。拠点病院へは500冊、推進病院へは100冊ずつ四国がんセンターから配布させて頂いた。

・都道府県連絡協議会で情報提供のあった「がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ」(冊子)とがんサポートブックえひめの両方を上手く利用しての広報活動について、今年度、検討することを予定している。

3) チェックリストワーキング

・昨年度実施報告と今年度の評価及び課題について

・チェックリストにGoogleフォーム(がん相談支援専門部会Googleアカウント)を使用すること、重点項目の評価のみ実施するという件について検討をおこない、承認を得た。

・チェックリストの提出について、今年度も例年通り11月末(11/30(水))までに全施設

より提出頂き、WGで結果を取りまとめる。今年度の重点目標は、①患者を孤立化させない支援、②研修参加の促進の2点について検討する予定としている。

## 6. がん患者サロンについて

### 1) おれんじの会松本さんより

ピアサポーターの派遣およびピアサポーター養成研修について

コロナ禍でなかなかスムーズに行なえないが、今年度も養成研修は行う（令和4年9月予定）。

### 2) サロンの開催状況について

四国がんセンター患者・家族総合支援センター暖だんの現状報告と、愛媛大学医学部附属病院のオンライン開催取り組みについての紹介があった。

## 7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

### 1) 「認定がん専門相談員」認定事業の研修案内

### 2) 「情報から始まるがん相談支援」研修案内

令和4年8月21日（日）高知県主催でオンライン開催

## II. その他

### 1. がん診療連携拠点病院等指定要件に関するワーキングより

（おれんじの会 松本さんより）

### 2. 2022年度愛媛県災害時連絡シミュレーション実施について

毎年おこなっている愛媛県災害時連絡シミュレーションを、8月1日に行った。

### 3. 災害発生時の部会活動中止・延期に関する取り決めについて、周知をおこなった。

<愛媛大学医学部附属病院の薬師神先生より>

若年がん患者在宅療養支援事業について、具体的に詳しく教えて下さい。

<愛媛県保健福祉部健康衛生局健康増進課係長 三宅様>

事業の概要についての説明あり

<おれんじの会 松本さん>

この事業については患者団体からも強い要望を出して県のご理解により実現して頂いている。20歳～40歳未満の方は、国の制度上、在宅で過ごしたい場合に全く何もサポートがない状態となる。例えばベッドを借りるとかヘルパーさんの助けを得るといった場合に、この事業を利用することで介護保険並みのサービスを利用できるという制度となっている。県と市町のご理解に感謝しております。医療者の皆様からも是非こういった制度があることを紹介して頂けたらと思います。

## 5) がん登録専門部会

＜がん登録専門部会 寺本部会長＞

・6/24に専門部会をWebで開催した。

### 1. がん登録専門部会のVisionについて

これまでの活動方針は、自分たちが頑張ることに重点をおいていたが、これからは周りをみて「質の高いがん登録を継続して行える体制を作り、住民・医療関係者の期待に応え、信頼できるがん情報を提供する」。目指すところをホームページに挙げている。

### 2. 都道府県がん診療連携協議会報告

・今年度は院内がん登録と全国がん登録の提出を1回の提出作業で完了するよう「がん登録共通届け出システム（GTS）を利用するように変更があった。

・東班QI研究は拠点病院のみの参加となっているが、推進病院の参加も可能なので、愛媛県のPDCA活動としても重要な研究活動となっているので、推進病院も是非参加して下さい。提出作業はアプリに登録をするだけで完了できる。

・患者体験調査が2023年に実施される。（2022年度中に倫理審査および対象者選択の通知がある。）

### 3. 全国がん登録室からの連絡事項

昨年と同様のスケジュールで提出をお願いします。

・院内がん登録 全国集計提出期間と同じ。

・がん診療連携拠点病院 2022年7月4日（月）～8月5日（金）

・がん診療連携推進病院 2022年8月8日（月）～9月9日（金）

### 4. 活動検討委員会について

実務者が主体となって検討できる場の一つとして運営している。これまで、医師（山下夏・がん登録部会副部会長）が中心となっていたが、今年の夏より腫瘍登録士を中心に活動していくようにスタイルを変えている。腫瘍登録士同士で試験（受験）の支援などをおこなっている。

### 5. 2021年症例冊子『がん登録でみる愛媛県のがん診療2023』

・例年同様に2021年のデータを国がんへ提出後に集める予定としているが、今年は院内がん登録の提出方法が変わったことで冊子の発刊は遅れる可能性がある。

・愛媛県がん情報データベースの構築により、研究利用が可能となる予定である。

・コロナ速報を昨年に引き続き実施する。『健康のために必要なことはコロナ禍でも自粛してはならない』

・昨年は、冊子を院内で配布したいので部数を増やしてほしいという要望があった。受付ますので希望があればがん登録専門部会事務局まで連絡下さい。

・全県集計については腫瘍登録士以外のメンバーを集めて編集委員会を開くことも検討しているので、参加したい方はがん登録専門部会事務局まで連絡下さい。

## 6. C15 に関して

がん登録専門部会は全国がん登録も視野に入れて活動しているが、「Cancer incidence in five continents」という世界のがん罹患についての冊子に愛媛県からもデータを提出して、次の号から参加できるようになった。これは、WHOのブルーブックなどで、どこの国に何のがんが多いというような最初のページに書いてあるようなデータの元になっているもので、精度の高い地域がん登録であると認められた国と地域のみ参加できる。これまでは全国で9県の参加であったが、17都道府県が参加することになり、その中に愛媛も加わることとなった。

7. がん情報利用プロジェクトを再開する予定。具体的には決まっていない。

8. 5大がん登録講座第10回記念大会を来年開催する。腫瘍登録士以外でも参加可能なので、参加下さい。

## 9. がんサポートサイトえひめ

・愛媛県がん診療連携協議会（がん登録専門部会とがん相談支援専門部会が共同で）が愛媛県より受託したがん患者さんのためのがん情報サイトで、「愛媛県がん対策推進計画」に基づく。

・がん種別（乳房・胃・大腸・肺・肝臓・子宮頸部・原発不明癌・AYA世代（15～39歳）のがん、膵臓、前立腺）はほぼ揃ったので、内容を充実させていく。アンケート7/31締切でData更新、HP関係では図のRetina対応化、HP appearance近代化、などを検討中である。

・広報をどんどんしていく必要があるが、コロナ禍のため中断している。近いうちにWEBミーティングなどを開きたい。

・アクセス状況 11689 views/2020、4406 unique access/2020

<おれんじの会松本さんより、患者体験調査のスケジュールについて再確認して頂いた。>

## 6) がんの集学的治療専門部会

<がんの集学的治療専門部会 青儀部会長>

・7/14にWEBで専門部会を開催した。

1. 「在宅がん患者のirAE管理ツール」の運用について
2. 薬薬連携「保険薬局とがん専門病院のがん化学療法に関する連携」について
3. 愛媛県在宅ケア推進協議会の活動について
4. 曝露体験型セミナーについて、曝露調査について
5. 放射線治療FAX紹介簡易版について
6. がん薬物療法多職種チーム研修について
7. 提案：がんサバイバーシップ研究について

1. 「在宅がん患者のirAE管理ツール」の運用について

愛媛大学の薬師神先生が中心となって開発されたIT技術を用いた「在宅がん患者の

irAE 管理ツール」について紹介。通院治療での抗がん剤の副作用に関しては、医療者が患者さんの体調をアップデートした形で把握することが難しいといった状況がある。そこで、医療者、患者さんの双方が簡単にアクセスして患者さんの副作用や不安等を把握できる方法がないか検討して頂き、IT 技術を用いて、毎日の患者さんの体調を医療者が知ることができるようなシステムとして開発されたものである。愛媛大学の中央倫理審査委員会での承認が得られており、四国がんセンターでもこのシステムが利用できないか検討をすすめているが、連携協議会参加施設の皆様、参加施設外の皆様も無償で利用可能であるので、使ってもらいたい。

## 2. 薬薬連携「保険薬局とがん専門病院のがん化学療法に関する連携」について

外来化学療法をおこなう際の保険薬局と医療機関との連携について、愛媛県薬剤師会の会員保険薬局の薬剤師を対象としたアンケート調査結果のまとめを提示。特定薬剤管理指導加算2について調査時点で取得しているのは1/4に留まっており、薬薬連携について充実させていく必要がある。がんに関する新しい情報を得るための勉強会の機会についても、まだまだ利用されていない現状があるので、医療機関の側からも勉強会の機会を提供していくことが必要である。次回は、医療機関の連携充実加算の取得状況を調査させて頂きたい。

## 3. 愛媛県在宅ケア推進協議会の活動について

愛媛県在宅ケア推進協議会の活動についての報告あり。在宅緩和コーディネーターを中心とする各地区の症例検討会があるのでご案内していく。

## 4. 曝露体験型セミナーについて、曝露調査について

例年行っていてコロナで中止になっていた曝露体験型セミナーを 2022/6/30（木曜日）18時から当院で開催した。国がん名誉総長、抗がん剤曝露対策協議会理事長の垣添忠生先生のご講演もあり、各ご施設からのご出席も含め53名の参加ありとの報告あり。

ケモ関連スタッフの尿中サイクロフォスファミドのパイロット試験を 2022/2 に実施、尿中の濃度が高いスタッフあり。また通院治療室、薬剤部の床、壁からサイクロフォスファミド、5-FU が検出された。再調査中で、対策・モニタリングが必要かと思われる。部会内での調査も検討中である。

## 5. 放射線治療 FAX 紹介簡易版について

放射線治療 FAX 紹介を簡易におこないたいということから、明日の予定はどうか、等の手続きが簡易にできるような放射線治療 FAX 紹介簡易版の原案を作成し、協議会参加施設に配布をする予定で準備をすすめていたが、関係者間で相談し、まず四国がんセンターから紹介の際に原案の様式を使用し、問題点を探ってから検討したい。協議会参加施設の皆様には、ご意見を頂ければと思います。

## 6. がん薬物療法多職種チーム研修について

外来通院治療室のよりきめ細かい運用を目指して「実践から学ぶがん薬物療法多職種チーム研修」を7/30(土)に開催した。MSW を中心とした情報共有の方法についての検討が本

研修の要である。県内3施設のご参加をいただき、医師・薬剤師・看護師・MSWのチーム活動として問題点の検討をおこなっている。継続して開催していく。

#### 7. 提案：がんサバイバーシップ研究について

第3期がん対策推進基本計画、分野別施策の「がんと共生」、がんサバイバーシップに関して、がんサバイバーシップケアモデルに関する概念定着や実践の展開は十分とはいえない。愛媛県で、こういったリソースを用いてサバイバーシップケアを展開していくか、日本癌治療学会とファイザーのチーム医療に関する3年間の研究助成金が取れたので、eラーニングと、地方研修プログラムを作成予定である。その折は愛媛県がん診療連携協議会参加施設の皆様のご参加をお願いしたい。書籍「がんサバイバーシップ学」については、各施設に1冊ずつ配布させて頂いた。

《質問特になし》

#### 7) がん看護専門部会

＜がん看護専門部会 大西部会長＞

- ・がん看護専門部会の重要な活動としてのがん看護実践能力向上研修について

コロナ禍の中、令和2年度は実施できず、令和3年度は初めての試みとしてWEB研修、自施設実習を取り入れ、対象者を拠点病院に限定して開催させて頂いたが、9名の修了者を得ることができた。

令和3年度は第3期がん対策推進基本計画の分野別施策を達成するために、それまでの目的および内容を変更して「がんと診断された時からの緩和ケア」「ライフステージに応じたがん対策」にスポットをあてて研修を企画し、開催した。

令和4年度は令和3年度の実績と課題を踏まえた研修企画となっており、県内施設から17名の応募があった。講義はWEBにおいて7日間（令和3年度）→10日間とし、トータルペイン、危機理論、セルフケア、家族ケア、を追加し、中間評価およびフォローアップ研修をおこなう。実習は、感染対策に気を付けながら、四国がんセンターでの実習も再開することとしている。全ての実習を自施設でおこなう／全ての実習を四国がんセンターでおこなう／病棟実習を自施設でおこない、通院治療室や患者・家族総合支援センターなどの他部門実習を四国がんセンターでおこなう、といった選択が可能となっていることが今年度の特徴である。

推進の要である各施設のファシリテーターとの連携を図りながらすすめていく。8/18が開講予定となっているので、実習生参加施設におきましては、講義、実習支援等ご協力をよろしく願います。

- ・令和4年度第1回専門部会の開催は9/27を予定している。

《質問特になし》

<橋根幹事長>

先程、役員会で決定したことをお知らせします。次回第2回の専門部会報告会について、毎年12月の土曜日の開催であったが、沢山の方が参加できるよう平日の方がより良いであろうということで、第一候補として年明け1/19(木)夕方5時30分からの開催を予定します。第二候補は1/12(木)ですが、なるべく1/19(木)5時30分～開催で予定しています。参加される方は予定をお願いします。

<橋根幹事長>

専門部会報告全体を通して確認事項、質問など、お気付きの点があれば事務局まで連絡をお願いします。

最後に、いつも参加して頂いているおれんじの会の松本さんから、何か追加発言等ないでしょうか。

<おれんじの会 松本さん>

新しく拠点病院の整備指針が1日に発出されているが、その中で、がん診療連携協議会への拠点病院の参画が強く打ち出されている。患者団体の参画を求めるといった文言も入っているが、愛媛県については、いち早く加えて頂くという取り組みがなされていることに感謝申し上げます。相談支援センターの周知などについては皆様方に一層のご協力を頂く点が増えると思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

閉会の挨拶<山下協議会会長>

本日はお忙しい中長時間に渡りこの会に参加頂きありがとうございました。繰り返すにはなりますが、松本さんからも報告がありましたように、次期の基本計画に向けていろいろな体制について、強化して欲しいといった希望やご意見が反映される形で、指針が出されております。我々も、この状況に応じて、地域の先生方とも連携を深めながら情報発信ならびに診療レベルを高める努力を続けていって欲しいという主旨であったと思いますので、ご確認頂きながら引き続きご協力頂きたいと思っております。本日は本当にお忙しい中、長時間にわたりありがとうございました。これで終了とさせていただきます。

閉会